



田代理事長から目録を受ける岐阜農林高等学校
相撲部 廣瀬大和顧問

高等学校等クラブ活動・地域振興活動 令和五年度 助成事業

伊藤青少年育成奨学会（田代久美子理事長）は、令和五年度事業として、高等学校等クラブ活動並びに地域振興活動に対して、総額四千三百七十三万円の助成を決定、七月七日、可児市大森のパローホールディングス研修センター「嫩葉舎」で贈呈式を開催した。

助成対象団体は、選考委員会が、当奨学会理念、心身ともに豊かな、次代を担える青少年を育成することを基準に、申請内容を精査。高等学校等クラブ活動三十一校、四十二クラブ（内スポーツクラブ二十一、文科系クラブ二十一）、地域振興団体等十六団体を選定。その助成額は高等学校

校等クラブ活動二千八百六十九万円（内スポーツクラブ一千三百三十九万円、文科系クラブ一千五百三十九万円）、地域振興団体一千五百四万円、今回の助成を加えた令和五年度までの助成実績総額は約五億八千万円余にのぼる。

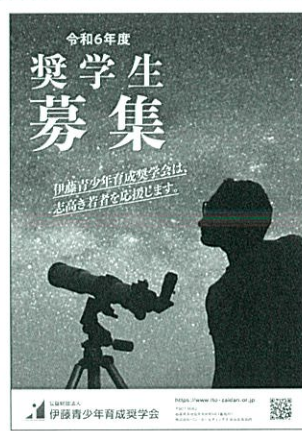
なお令和五年度助成事業への応募団体は、高等学校等五十三校、百十三クラブ、地域振興団体等助成が三十五団体、申請総額は一億二千二百五十九万円だった。

第二回漱玉館杯争奪 中部地区大学選抜女子剣道大会

伊藤青少年育成奨学会は、第二回漱玉館杯争奪『中部女子学生選抜剣道大会』を、十一月二十五日（土）午前九時より、岐阜県可児市の武道場「漱玉館」にて開催します。

昨年十月開催の開催一周を記念した「第一回漱玉館杯」はコロナ禍とい

令和六年度 奨学生募集



伊藤青少年育成奨学会は、「令和六年度 大学・大学院奨学生」の募集を、十一月二十一日から十二月二十日まで受け付けます。応募方法の詳細は当奨学会ホームページに記載しています。「大学奨学生募集要項」「大学院奨学生募集要項」をご確認ください。

うことで、対象地域を東海地区の大学女子剣道部に絞っての開催でしたが、今大会は北信地区の大学

女子剣道部にも拡大しての開催です。



出場するのは当奨学会が選抜した中京大学、星城大学、名城大学、福井工業大学、中部学院大学など八大学女子剣道部。一チーム五人制で、二組各四チームによる予選リーグを行い、各組上位二チームによる決勝トーナメントで漱玉館杯を争います。

第二回漱玉館杯争奪 『中部女子学生選抜剣道大会』

日時 令和五年十二月二十五日（土）

会場 「漱玉館」（可児市大森）

共催 公益財団法人 伊藤青少年育成奨学会

株式会社パローホールディングス

多治見市剣道連盟

後援 岐阜県剣道連盟

被支援団体の紹介

鉄砲柱を設置

岐阜県立岐阜農林高等学校

相撲部

令和四年度に多目的室を新築。相撲棟としても活用するために部員たちで土俵作りを行いました。相撲の基礎稽古に必要な鉄砲柱も無く、冬季の練習のための暖房設備もありませんでした。当奨学会からの助成金は、練習環境を整えるための鉄砲柱と大型ストロブの設置に充てられます。

ダブルスカル艇の購入

ぎふジュニアボートクラブ

横山厚志代表

令和四年度、国内中学生のボート大会最高峰とされる「全日本中学校ボート選手権大会」で四連覇を達成した強豪クラブです。しかし、二十年ほど使用してきた艇は他団体からの借り物で古くて重い。新たに新艇の購入を希望。費用は高額ながら、長期使用が可能な点を考慮して購入費の満額が助成されます。

伊藤青少年育成奨学会 理事長 田代 久美子様

この度のご支援、誠にありがとうございます。

私の将来の夢は、厩務員として働き、自分の育てた馬が競走馬として走るのを見ることです。そのため、大垣養老高等学校へ入学し、現在は馬部で先輩や先生方の指導の下、乗馬の楽しさや、馬の管理について学んでいます。学校には木曾馬が二頭おり、乗馬の基礎を学んでいますが、ある程度、乗れるようになると木曾馬ではなく、サラブレッドなどの乗馬に乗って練習することが必要となります。その為、二週間に一回のペースで滋賀県米原市にある乗馬クラブへ通っています。サラブレッドなど大きな馬に触れる機会は、私にとって、それはとても新鮮で、貴重な機会でもあります。サラブレッドは木曾馬より一回り大きく繊細で、管理の仕方も異なる部分があり、とても大変ですが本当に楽しいです。だからこそ、毎日サラブレッドの管理や乗馬ができれば、もっと将来の夢に近づける、学校にも乗馬が欲しい!という気持ちが込み上げてきます。

そのようななか、今回ご支援頂けることを先生から知らされた時には一瞬言葉を失いました。乗馬がやってくる喜びと、私の気持ちが通じた不思議さ。また、このご支援を無駄にしない活動をしなくてはならないというプレッシャーが私を襲ったからです。

今後は、現在三人の部員一人一人が練習を怠ることなく、周囲の人たちや先生方に認められるように毎日努力し、早く上達できるように頑張りたいです。

最後になりますが、この度は奨学会のご支援、本当にありがとうございました。

このご支援が、大垣養老高校のさらなる魅力と、私の夢の実現に向かっていけるよう、今を全力で生きていくことを誓います。

岐阜県立大垣養老高等学校 農業研究部 馬部 一年 吉田 爽

生徒を代表して馬部の吉田 爽さんから当奨学会の田代理事長に宛てたお礼の手紙が、顧問の三輪嘉文先生の代読で披露されました。

令和五年度助成金使用報告書

紫外可視分光光度計購入

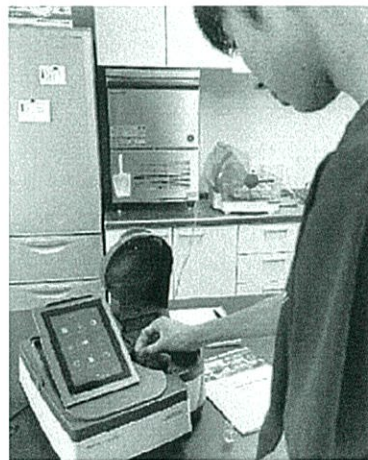
岐阜県立岐阜高等学校

自然科学部生物班

私たち生物班はサンシヨウウオ班、魚班、昆虫班、および植物班に分かれて活動を行っています。主な活動は、ヤマトサンシヨウウオの保全活動（先輩から引継ぎ十七年目となりました）、環境DNAを用いた長良川の鮎仔魚量の調査、長良川堤防における在来種（ジャコウアゲハ）および外来種（ホソオチヨウ）の蝶に関する調査、および、長良川堤防の外来性半寄生植物の調査です。今回いただいた助成金は、これらの活動に不可欠な分光光度計の購入に使わせていただきました。

本当に有難く感謝申し上げます。ありがとうございます。

購入させていただいた分光光度計を使って、早速、抽出したDNAを測定してみました。古い装置が壊れてからは、正確な濃度を把握せずに実験を行っていましたが、今回測定した数値を用いて正しく計算し、より正確に実験を行うことができました。多くの場面での新しい分光光度計を使用させていただき、日々の研究活動に生かしていきたいと思っております。



私たちは得られた調査研究成果をまとめ、各種学会にも精力的に参加しようと思っております。

分光光度計は、生物から抽出したDNAやタンパク質の定量に必要な高価な装置です。この装置があることで、実験の再現性が得られ、作業の効率化や薬品の節約にもつながります。昨年まで使用していた分光光度計が故障し、困っていたところでしたが、今回このようなご支援をいただき、

仲間と試行錯誤を繰り返して、調査研究を進める活動は、とても楽しく、充実しています。整った研究環境を存分に生かして、生物界に名を轟かせる部活動を目指し、これからも精進していきます。

「世界平和への道」

昨年からのロシアのウクライナへの侵攻は泥沼化し、何時その火の粉が日本に降って来るのか予断を許さない状況です。

国際交流とは何ぞや、という基本的概念を確認しておきたいと思います。国際交流の最終目的はひとことである。と世界平和の実現です。たがいに歴史や文化を知ることによって相互理解が深まり、民族および人間の尊厳を尊重し合うことが、世界平和への第一歩と考えます。かつての派遣事業は、外国に中高生を派遣することで「国際交流」という概念を消費していただけのように見えました。

派遣事業を完遂する手順に追われ、「国際交流とは何か」という大命題を中高生に考えさせる機会を作らなかったのは大人の責任です。「派遣事業の目的は中高生の気付き」というのは大人の怠慢です。いつか自発的に気付くであろうという根

拠のない希望的観測によって、我々は歴史のなかで幾つもの苦杯を舐め、蹉跎をくりかえしてきました。そして今まさにと言わざるを得ません。世界平和も国際交流も天から降ってくるわけではないのです。

まずは自国の歴史から学び、自国の文化を理解しましょう。それが世界を見るモノサシになります。次に討論しましょう。ワイワイガヤガヤと何度も話し合い、頭の中を耕すのです。本田技研ではこれを「ワイガヤ」と称し、発想の源としました。ハーバードの白熱教室も同様です。ものごとの見方や判断力がつきます。

次世代への責任を果たしましょう。

「国際交流再考」

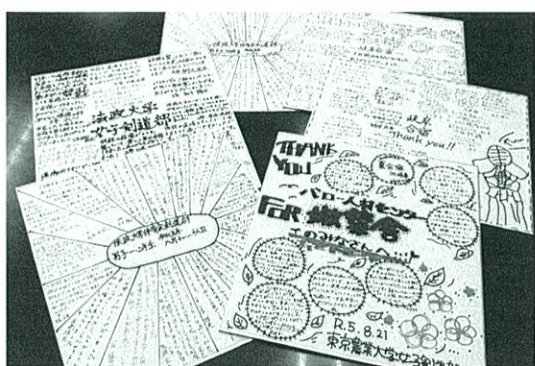
日本の「国際交流」という概念が岐路にたたされています。大陸などの国境に接する地域にとつての他国に対する交流という概念と、日本のように海に囲まれた国のそれとは同じでしょうか。海に囲まれ守られて来た日本人は、国際間の問題を肌感覚で理解するのがなかなか難しいのです。且て日本における国際的な交流は我々の実生活の中になく、指向、希求することによってのみ概念として存在したといえます。

従って指向・希求というプラスの概念に誘導され、国際交流即ち善として端緒からその理解が膨らんだのではない

でしょうか。しかし元来地続きであった場所が、国家の成立や都合により簡単にには行けない場所になる、という歴史を有する地域が世界には多々あります。そのような地域にとつて国際交流など寝言同様、国際交渉という言葉ならば現実的なものとして人々の思考及び行動の動機になるでしょう。「国際感覚」というのはなほ抽象的な言葉も同様の構図でしょうか。

しかし昨今の領海侵犯多発、領土領海問題などで他国との摩擦のニュースを頻繁に耳にしたり、外国人が同じ職場にいるようになると、さすがの日本人も国際交流などと牧歌的なことを言っではいられません。それはヒューマニズムの問題ではなく、その個々人の依って立つ文明・文化の衝突という側面を有するからです。「外交官ではなく外政官と名乗るべし」という塩野七生の文章がありました。外国と交流をするのではなく政治をすべし、ということ。言葉はその言葉の持つ属性から自由ではいられません。「国際交流」という危うい言葉を根本から見直す時期を迎えています。

漱玉館だより 大学剣道部 夏合宿



大学剣道部員からのお礼の寄せ書き

大学剣道部のトップである法政大学剣道部と東京農業大学剣道部が、相次いで今夏、漱玉館での夏季合宿を行いました。法政大学は八月十一日～十六日、東京農業大学は八月十六日～二十一日の利用で、法政大学男子剣道部の阿比留宏貴主将は、「最高の六日間をありがとございました。道場も、施設もご飯も素晴らしいものばかりで、めちゃくちゃ強くなれました！ しっかり男女ともに日本一になって恩返しできるように、これからは精進していきます」と力強く語ってくれました。

奨学生頑張ってます

先端医療の研究に勤しむ

高知大学 医学部医学科

三年 岡田 百加

二年生の後期では解剖実習があり、初めて人にメスを入れ、医師になることの責任と人の命を預かる仕事だということを経験しました。私たちがこ

うやって学んでいる裏には、献体をしてくださる人やそのご家族の想いと支えがあるからだと思えました。

高知大学では独自の試みとして、二年次からは先端医療コースといって自分の興味のある先端医療の分野について研究を行うことができます。私はア

保健師になるために

努力を惜しまない

岐阜医療科学大学

看護学部看護学科

三年 加地 心菜

私は看護学生であり、大学入学当初から目標であった保健師コースに三年生から進むことができた。現在、看護の授業と保健師の授業を並行して行っている。保健師コースでは、主に公衆衛生活動や学校保健、産業保健について学んでいる。学んでいる内容はどれも難しいが、自分の学びたいことがすべてであることを本当に嬉しく思う。二年生の後期は大学生活の中で一番成績

が上がりに、また一番努力した時でもあった。日々の小テストや中間テストなどを通して、どうして私はこんなにみんなより出来ないのだろう、どうしてこんなに頑張っても駄目なのだろうと何度も思った。しかし、私の目標としてしている保健師コースに選ばれること、そして知識のある頼られる看護師になるためには今の努力では足りないということに気づいた。今までと同様、授業後に必ず一時間は学校に残って勉強をしていくことは継続させ、家に帰ってからも休んだ後には時間を決めて勉強すること、アルバイトと勉強を両立させながら、勉強時間をきちんと確保し図書館に行くことを決め、必

ルツハイマーの薬の開発に関わる研究を始めました。現在でも完全に病気を根治させるのに明確な効果のある薬は開発されていないのが現状です。そのような人の役に立てればと思います。と研究に勤しむ日々を送っています。今年一年の研究の成果を学内の賞に応募し、賞を頂くことができました。創薬の研究は、ひとつひとつの実験で明らかになることが少ないからこそ、目

ざ実行した。勉強を頑張る中で、頑張りが続いたために自分をたくさん褒めることや、頑張っても駄目だった時は落ち込み、その後どうして出来なかったのかを考え、次に生かすことの大切さを学んだ。今、毎日授業や課題、予習、復習で忙しいけれど、とても充実している。それは努力をしているからだ。私は思う。大変さの中に、やりがいや達成感を感じている。三年生の後期に、保健師コースの最終選択がある。通ることができても、できなくても、今までの努力は無駄ではないと思え、努力してきた自分に自信を持ちたい。そして、これからも努力を必ず継続させていきたいと思う。

先の実験だけにとらわれず、その先の患者さんのことを想うことで張り合いが出ると感じました。

研究だけではなく日々の勉強においても、背後の患者さんやご家族のことを考えることで張り合いが出て、テストのためだけにない本来の意味での知識が身に付くと感じました。

アメリカで一カ月間 現場を感じて

岩手県立大学

看護学部看護学科

二年 新藤 碧斗

看護学部内の講義において「NP（ナース・プラクティショナー）」に興味を持ち現場でみてみたいという思いから、相手方の大学（UNMC）に直談判して二月十四日から約一ヶ月間病棟見学等をさせていただきました。

日本とは異なり看護師・准看護師・清掃業者といったすみ分けが非常に明確でした。ここは私の仕事の領域だから邪魔をしないで、という発言は決して日本では見られないもので新鮮味がありました。

新たな学び インドネシア語

愛知県立大学

外国語学部英米学科

四年 山下 優那

二〇二三年前期からは、新しい言語を学びたいと考え、インドネシア語の授業を取っています。マイナーに思えるかもしれませんが、インドネシアの人口は現在二億七千万以上で、周辺国でもインドネシア語とほぼ同じ言語が国語となっています。世界的な影響力も大きくなってきており、かつ夏に東南アジアを周遊したいと考えているの



で、スマートフォンのアプリを活用しながら意欲的に学習に取り組んでいます。

教科書通りにはいかない 実習での経験

岐阜医療科学大学

保健科学部放射線技術学科

三年 宮西 姫梨

二月に初めての病院実習がありました。五日間だけの見学実習でしたが、実際に見学しないと学べないことが多くありました。地元の市民病院を見学させていだいたので高齢の方や入院中で身体の不自由な方がほとんどで、

教科書に書いてある撮影方法では上手くいかないことがありました。どうしても患者の苦痛にならず診断に使える画像を撮影できるかを患者に合わせて工夫することが重要だと学びました。チーム医療という言葉が近年注目されていますが、実際に放射線科にも医師や看護師だけではなく臨床検査技師や理学療法士などが患者の情報を共有していました。どんなに時間に追われていても患者の前ではそのような素振りは一切見せず仕事をする技師の方々

シリーズ 第36回

この本をあなたにも薦めたい

伊藤青少年育成奨学会 事務局長 加納 志貴

『菜の花の沖』



著……司馬遼太郎(しばりょうたろう)

発行……株式会社文藝春秋

昭和五十七年

定価……新装版 八二五円(税込)

『坂の上の雲』『竜馬がゆく』など、数多くの歴史小説を残した司馬遼太郎。

司馬は、日本人とは何かを問いつける。日本と日本人が培(つちか)つてきた民族性や特性、清々しさや美しさへの感性。「志」を持ち、その意志のもとに行動することこそ「貴い」と。

私ども団塊の世代の多くは、三代に司馬作品と出会い、「何かを成し遂げなければならん」と、奮い立つことになった。

『菜の花の沖』は、昭和五十四年四月から、「サンケイ新聞」に連載された。主人公は、高田屋嘉兵衛。淡路出身の海運業者で、江戸時代後期に北前船交易で成功し、箱館(現・函館)を間近で見て、「私もこの中に入りた

い」「こういう風に人のために自分の

を聞き、択捉(えとろふ)航路を開拓するなど、蝦夷地経営に関わり活躍。一八二二年にロシアの軍艦に拿捕(だほ)され、カムチャッカに連行されたが、その人間性でロシア人の信頼を得、帰国後は日露両国に頼られ、松前に幽閉されていたデアナ号艦長ゴローニン少佐の解放に尽力する嘉兵衛の人間と人生を縦糸にする。

これに、江戸時代とは、日本の近代化とは、なんであったか。商品経済が人間と社会をどのように変化させたか。鎖国により航海を禁じられた和船の技術、発明、航路の工夫。そして、ロシア及びロシア人という存在。これらが横糸として描かれる。

力を発揮できる人になりたい」と思いました。

地歌舞伎に参加

日本福祉大学

社会福祉学部社会福祉学科

二年 細江 嘉苗子

今年の三月に、ぎふ清流文化プラザで行われた「地歌舞伎勢揃い公演」に、白雲座歌舞伎保存会の一員として、役者として、参加しました。地元にある「白雲座」という舞台で年に二日、地域の人が役者となり、地歌舞伎公演を行っていました。新型コロナウイルスの影響を受け、白雲座歌舞伎公演はしばらく中止に

なっていました。

この岐阜公演が復活の舞台となりました。本番は、お客さんも満員で、素晴らしい作品になり、白雲座歌舞伎の良い再スタートになったと思われました。公演後に、地域の皆さんからは「参加してくれてありがとう。」とたくさん声をかけていただきました。今後も大好きな地元や岐阜県下の地域コミュニティを活性化できるように、様々な地域行事等へ、積極的に参加していきます。

強敵との対戦を楽しむ

中部大学

生命健康科学部理学療法学科

二年 三尾 彩花

私は高校を卒業してから社会人バスケットボールチームに入っています。私達のチームは今年の五月から行われた岐阜県のリーグ戦で、一部リーグに昇格できました。さら



に、十二月上旬には東海大会に出場しました。相手は愛知県一位と、とても強いチームでした。結果は負けしまいました。自分得意なプレーがどこまで通用するかを楽しみながらプレーすることができました。大学生になっても大好きなバスケットボールをでき、充実した毎日を送っています。部活動とはまた違う楽しさを味わうことができています。

失敗を教訓に

筑波大学大学院

山岳科学学位プログラム

二年 猪島 悠太

修士課程の研究では茅葺き屋根のための茅生産を行う萱場において、質のいい茅を生産できる生物多様性の高い草原に創出する方法を探っているのだが、「質のいい茅」を評価するための試験のための茅サンプル回収を行う日の前日に連絡の行き違いによって草刈り業者が作業を行っ

てしまい、サンプルがなくなってしまうアクシデントが発生した。予定した試験は実施不能となったのだが、少しでも研究成果を作るため、別の実験をその場で考案し別の形でサンプルを回収することとした。作業日程をしっかりと確認していなかった自分にも多少の非はあるとは思いますが、実験を行っている旨を伝えてあった上に、実験区画をポールとテープで囲い明示してあったのに破壊されてしまったことには非常に衝撃を受けた。この失敗は研究を外部機関と協

力して進める際のコミュニケーションの重要性を教訓として刻み付けるとともに、予期せぬ事態が起きたときに何かしらの成果を残すバックアッププランを用意しておくことが必要不可欠であることを学ぶ機会となった。二〇二三年度は修士課程の修了年限であり、昨年度のような失敗は許されない。そのため、私は現在いくつか失敗してしまふことを前提に、複数の実験計画を立て取り組んでいくところである。

行政が協力したつくば市内の生物多様性調査プロジェクトが開始され、私もその一員として調査を行うこととなった。すでに何度か調査に同行し、普段は目にするものがない、あるいは目にしてもその希少性に気が付かないような動植物の存在を知り、知識や調査技術、経験がなければ現状を正しく認識できないという自然科学の難しさを改めて痛感した。



公益財団法人

伊藤青少年育成奨学会

〒507-0062 岐阜県多治見市大針町661番地の1
株式会社パローホールディングス本部門内
※Eメールアドレス、電話番号はホームページでご確認願います。
<https://www.ito-zaidan.or.jp>



発行 公益財団法人
伊藤青少年育成奨学会
印刷 新日本印刷株式会社